四季 ー志木自然報告ー
Shiki Seasonal Nature Reports 2004

# Introduction

## タヌキが出没する高校

　おそらく目撃した人もいるとは思いますが、『志木高の構内にタヌキが出没します。』
　ただ最近, タヌキの出没傾向が変わってきたように思えますので, タヌキについてすこし書いてみようと思います.
　東武東上線志木駅と朝霞台駅の間に,『GENE CITY』という名のマンションの建設が着々と進められています. 2002年より, 建設予定地である『ハケの山』と呼ばれた雑木林が切り開かれて, 多くの生物が棲息環境を奪われた結果, 人目につかないところでもある変化が目撃されるようになりました.
　それは, 深夜街中を走り回るタヌキの姿です. そして, 志木高内に多くのタヌキが目撃されたのは, それから間もなくの事です. 元来, タヌキはとても臆病な動物です（何かに驚くと, 俗に「死んだ振り」と呼ばれるショック状態に陥ることがあります）. 棲息地が脅かされれば, 新たな生活空間を求めて移動していきます. しかし, 志木, 朝霞地区を航空写真で眺めてみるとまとまった緑地が存在するのは, ハケの山と本校, そして「斜面林」と呼ばれる崖に沿った細い樹林帯のみです. したがって, ハケの山が消滅すれば, 残された緑地は本校のみ, ということになります.
【『ハケの山』関連H.P.=http://www.geocities.co.jp/NatureLand-Sky/3100/ 】

## 都市化とタヌキ

　タヌキは日本全国に分布しますが, 亜高山帯以上の高さに生息することは少ないようです. 基本的には雑食性で, 鳥類, ノネズミ等の小動物, 昆虫から野生果実類等を食べますが, 似たような生活を送るキツネ, イタチ類に比べ, 土壌動物（甲虫の幼虫, ミミズ等）の採食量が多いようです. 都市部では稀に残飯を漁ることが知られていますが, これはタヌキが雑食性であることによる一種の「適応」と考えられます.
　親子あるいは家族が近い距離に集まり, 生活・行動するため, 本校内でもよく親子連れを見かけることがあります. また, 特定の場所に排泄する『溜糞(ﾀﾒﾌﾝ)』と呼ばれる行動を取ります（校内のヒトの入れる場所では, まだ溜糞を確認できていません）. 市街地では道路の蓋付き側溝がタヌキの通路として有効活用されているようです. 春に3-5頭を出産しますので, ゴールデンウィークから夏休みにかけて子どもを確認することができるかもしれません. 秋口までは, 家族群（＝単位）で行動します.
　ただ, 最近気掛かりなのは, 目撃される個体数が急速に減ってきているように思われることです. 一観察者の直感に過ぎませんが, 一見安泰に見える志木高の自然環境も目に見えぬ変化の波に飲み込まれているのかもしれません.

(Miyahashi)

z/c 353-0004 埼玉県志木市本町4-14-1[tel: 048-471-1361]
慶應義塾志木高等学校
2004年 冬号(No. 007.)
2004年 1月 16日発行

# 志木の自然[長月(9月)〜睦月(1月)]

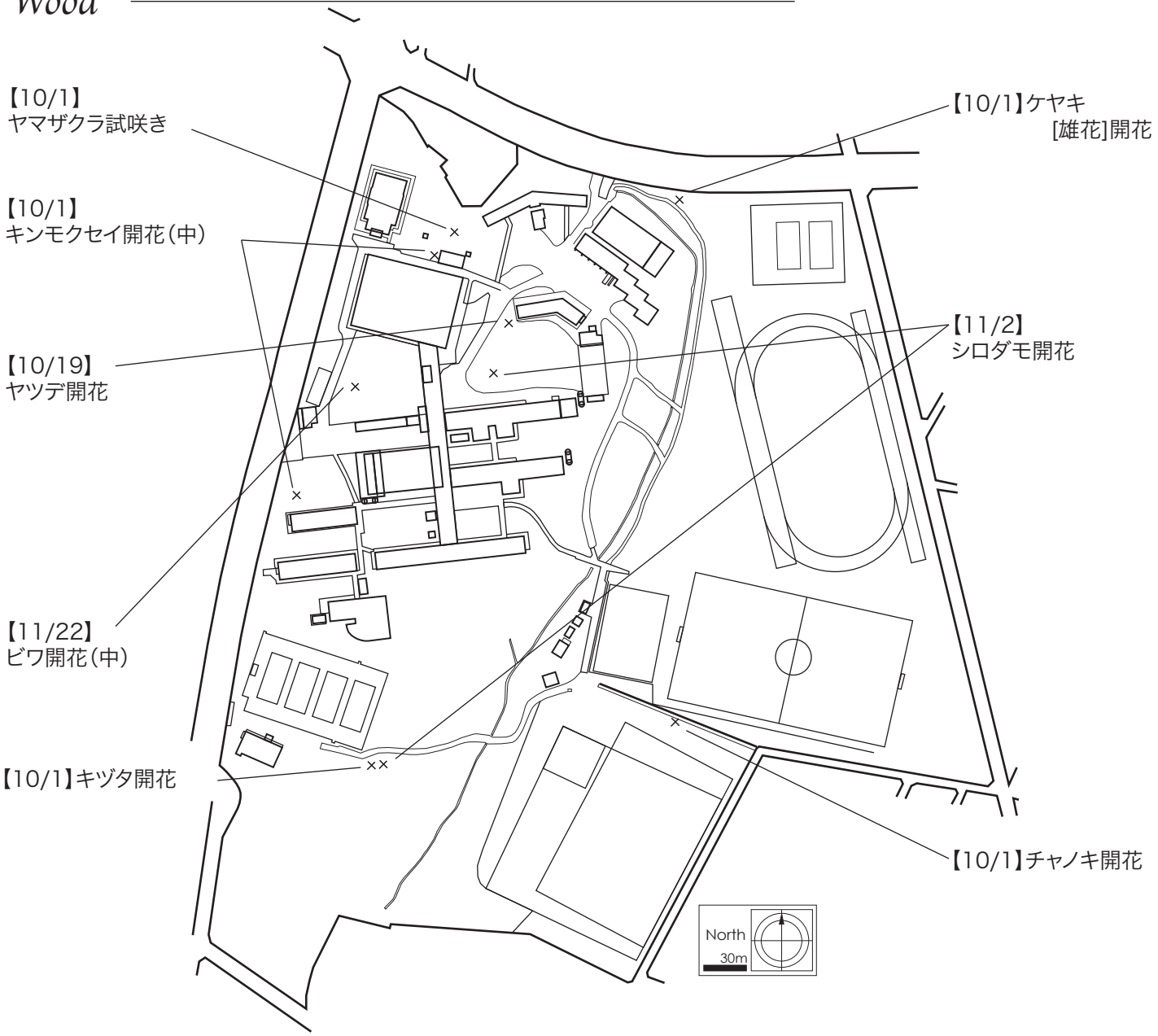
## *Plants* [2003年9月〜2004年1月までの記録]

晩秋から冬にかけて咲く花はそれほど多くない。今年は狂咲き、試咲き（何れも季節外れの開花）が多いように思う。この時期、植物の名を覚えるには絶好のチャンスである。

## *Grass*

| | |
|---|---|
| *19th Sep. 2003* | ヒガンバナ開花 |
| *1st Oct. 2003* | ツルマメ、ヤブマメ開花。クワクサ、イヌタデ開花中。 |
| *12nd Oct. 2003* | ホトトギス開花。ヒナタイノコヅチ、チヂミザサ結実中。 |
| *19th Oct. 2003* | ノコンギク、セイタカアワダチソウ、オギ開花。ツワブキ、ツルドクダミ開花中。 |
| *8th Dec. 2003* | ユッカ、ナズナ、トキワハゼ、オオイヌノフグリ開花（ユッカ以外は4月以降の花）。 |
| *19th Dec. 2003* | ニオイスミレ、ヘビイチゴ開花。 |
| *30th Dec. 2003* | カタバミ開花 |

## *Wood*

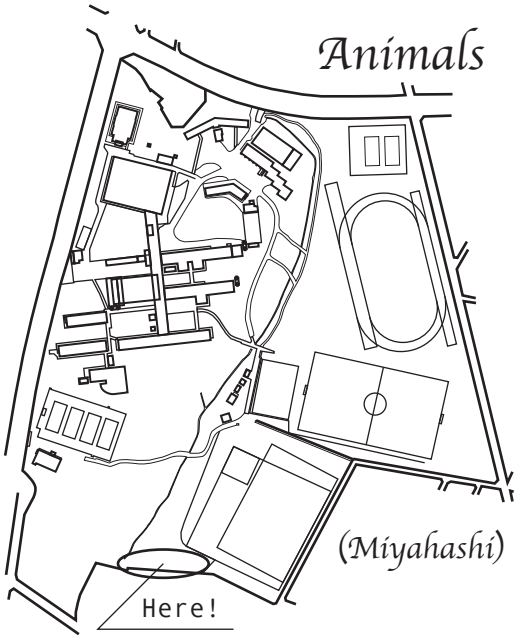



この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。名前を手がかりにぜひ図書館で一度調べてみてください。

*(Miyahashi)*

## Animals

### マテバシイ並木の秋




(Miyahashi)

8月下旬から10月にかけて、本校敷地南縁にあるマテバシイの並木（右図"Here!"）には多くの変化が見られる。まず、8月下旬をピークにセミ（主にアブラゼミ）の抜け殻が急増する。9-10月に入るとこの一帯は数十匹のコガネグモによる一大営巣地になる。また、この時期はマテバシイの「よく太った」ドングリを多数拾う事ができる。

今年は、調査中(10/12)に『拾い物』をした。ホーランドロップイヤーという耳の垂れたウサギ、三匹である。「自然の多い」この敷地なら生きていけると思って誰かが捨てたのだろうが、外国産のウサギが生きていけるほど優しい環境ではない。現に一匹は既に死んでいた。責任ある飼育が根付くには未だ時間がかかりそうである。

### 野鳥の群れについて

秋から冬にかけて野鳥の中には, 単独や番(つがい)ではなく, 何羽も群れを作る種類が多くいます. そのうち, スズメやムクドリといったほとんどの鳥は**同じ種類**で群れを作り, それらは多い時には数百羽にもなります. 志木高のグラウンドでもスズメが百羽近い群れでエサを探している姿をよく見かけます. ところが, 野鳥の中には**混群**(こんぐん)と呼ばれる, **何種類もの野鳥が集まり, 一つの群れを作る**という種類がいます. 一般的に混群を作るのはカラ類と呼ばれる鳥の仲間が主で, スズメより少し小さいくらいの鳥たちです. 都市の中の公園などと, 山の森林とでは混群に入る種類が少し違いますが, 一般的にシジュウカラ, ヤマガラ, エナガ, メジロ, コガラ, キツツキの仲間のコゲラなどが混群になることが多いようです. 多い時には一つの混群に10種類もの鳥が混ざっていることがあります.

群れを作る理由としては, まず第一にタカなどの**天敵から身を守り, 危険を回避しやすい**ということです. 自分がエサを食べている時には, 他のメンバーが周りを見ていてくれるので, 危険をいち早く察知し, 逃げられる可能性が高くなるわけです. 第二に**エサ場を見つけやすい**ということです. カラ類の場合, 種類によって, エサを取る場所が枝の先だったり, 木の幹だったりと違い, お互い競争にならずに, 協力してエサの多い木々を見つけることができるわけです. このようにして, 鳥たちはエサの少ない冬を, 種類を超えて協力し耐え抜いているのです.

(2-A 村松　洋之)

## Meteorology

### 関東地方の大雪は立春を過ぎてから

とても寒い日が続いています。二十四節気では「小寒」。今月21日には「大寒」となり冬本番。東京の気温の平年値（平年値とは過去30年間の平均値のこと。）も、1月下旬が5.5℃（理科年表）と一年の中で最も寒い時期と言えます。しかし、私たちの暮らす関東地方南部で雪景色が見られるのは2月が多く、年によっては3月や4月上旬に大雪となることもあります。最も寒い1月よりも遅れた2月以降に大雪が多く見られるのはなぜでしょうか。

ここのところ乾燥注意報が連発しているように、1月は大陸の冷たい空気（高気圧）が日本列島を覆い、低気圧が日本のはるか南を通過するため降水が少なくなるからです。もし1月が2月以降と同じ割合で降水があるとしたら、1月が最も降雪量が多くなるでしょう。しかし実際は、関東地方は快晴が続き、放射冷却が効き、おまけに大陸からの寒気の吹き出しが日本の脊梁山脈を越えてやってくる強風（からっ風）もあり、とても冷えこみますが雪は降りません。

2月になり「立春」を過ぎると寒気という名の高気圧（NHKの天気予報では「冬将軍」）はやや北へ退き、低気圧の通り道が北上してきます。そして関東地方に降水をもたらすことになるのですが、このとき上空850hPa（高度およそ1500m）の気温が－6℃以下であれば地上に雪が融けずに落下するという研究がなされています。（これはあくまでも目安。条件によっては－6℃以上でも雪、霙、雨が観測されている。）あまり自信をもって言うと「立春の前にも降ったこともある」と反論したくなる方。あくまでも傾向ですので御用心を。

(Higuchi)

# 四季折々（一月の俳句）

寒禽や
教室棟の
中庭に

英

今回の句は、本井英先生に作句をお願いしました。

一月の季題である「寒禽」は、寒さの厳しい時季の鳥類を総称して呼んだものです。「寒雀（かんすずめ）」、「寒鴉（かんがらす）」も同じように一月の季題として、俳句に詠み込まれます。

今回は、鳥に関係する季題を取り上げてみました。この時期の校内の林の中には、メジロ、コゲラ、アオジ、ムクドリ、ヒヨドリ、キジバトなどをはじめとして、実に多くの鳥類を見る事ができます。

| 執筆・担当区分 | 俳句 | 本井　英 (Motoi) |
|---|---|---|
| | 鳥類 | 渡部　真也 (Watanabe) |
| | 天文・気象 | 樋口　聡 (Higuchi) |
| | 鳥類・植物 | 速水　淳子 (Hayami) |
| | 植物・小動物[&発行責任] | 宮橋　裕司 (Miyahashi) |